

刊行に思いを寄せて

このたびの本の企画は、2005年頃から考えていたもので、私の家族を核にして執筆を試みた一冊である。

2005年8月3日、勤務中に腹痛が悪化し、私は生まれて初めて救急車でいわき市の病院に搬送された。腸の狭窄症で、約1か月の検査入院だった。容態が悪化すれば手術が難しく、仙台の東北大学病院への転院も考えられていた。しかし、幸い手術には至らなかった。

入院から8月19日の退院までの時間を利用し、私は病院のベッドで原稿を書きまくった。普段の多忙な勤務状況の中では、帰宅後に十分な執筆時間をとることが出来ないからだ。会社の作業服のまま病院に搬送されたため、知人のR子さんに原稿用紙と筆記用具を届けてもらい助かった。入院期間中にこれ幸いと書きまくったのである。

私にとってこの本は、写真詩集『MIRAGE』（詩・田中保子（佐知） 太陽出版 1993年6月15日刊行）に次ぐ出版となる。本来2007年の退職前に刊行する予定であったが、今日まで大幅に遅れた理由は、姉の保子が2004年2月4日に癌のため59歳10か月で永眠し、その後、姉の残した原稿を母志津と纏めあげて、詩集・エッセイ集・遺稿集・絵本詩集・全作品集などの刊行を最優先にした為である。また、新宿歴史博物館に於ける姉の追悼展をプロデュースし、個展や原画展及び朗読会の開催にも時間を費やしてしまった。加えて、2013年刊行の母の全作品集にも尽力し、自分の作品が後回しになった。今年96歳となった母の年齢を考慮すると、この選択は正しかったと思う。姉の没後から2012年まで、毎年本を刊行している。韓国でも、姉の詩集『砂の記憶』『見つめることは愛』の2冊がバベルコリア社により翻訳出版された。私の知っている範囲では、没後このように毎年新刊を出した作家は文学

史上皆無のような気がする。同時に、姉の残した原稿を本として刊行出来たことに誇りを持つ。某出版社の会長には「五十年に一度出るか出ないかの詩人である」と姉を高く評価して頂いた。勿論、出版社をはじめ多くの方々のご協力があったからこそ快挙であることは言うまでもない。

こうした背景の中で、本書『ある家族の航跡』を刊行することができた喜びを亡き父・姉・家族と共に享受したい。内容も家族を核に展開させ、新しい実験的な本づくりを目指した。

家族一人一人の点を線で結び、その延長線上に円を集結させる。円は時空をゆつくりと遊泳して一つの世界を創造する。それぞれの個性が引き出された時に、円は楕円となりまたいびつにも凹凸にもなり、その姿を変容させるが、それはプロセスであって最後は家族の絆で修復される。ベクトルは家族のくくりの中では一つに帰結される。

果たして読者にはどのように受け止めて頂けるだろうか？

刊行後は本が独り歩きをして、多くの人の目に触れ、それぞれの見方・評価をして頂ければよいと思う。

私は今、次のステージに立つ準備をスタートさせようと決意している。

余りにも遅い団塊世代の新たな旅立ちではあるのだが……。

刊行に当たり、初出誌関係各位の皆様方をはじめ、志茂田景樹氏、武蔵野書院院主前田智彦氏並びに編集部梶原幸恵女史には多大なるご支援・ご協力を仰ぎ、心より感謝申し上げます。紙上をお借りして、厚く御礼申し上げます。

2013年1月20日 避難先の東京都中野区都営住宅にて

田中行明

プロフィール

田中 志津(たなか しづ) 日本文藝家協会会員 作家

1917年	T 6年	1月20日新潟県小千谷生まれ。	2005年	H 17年	佐渡金山に「田中志津文学碑」佐渡金山顕彰碑建立。
1933年	S 8年	相川実科女学校(現新潟県立相川高等学校)卒業。	2006年	H 18年	「所沢図書館まつり」ゆかりの作家として親子出展(志津・佐知・行明)。
1941年	S 16年	東京目黒で田中一朗と結婚。二男一女を育てる。	2007年	H 19年	NHKより次男行明と取材を受ける。「田中佑季明の世界」関連。
1966年	S 41年	『文学往来』同人となり、小説「銀杏返しの女」を執筆。評論。	2008年	H 20年	日本文藝家協会「文学者の墓」(富士霊園)生前登録。墓前祭にて挨拶。
1971年	S 46年	随筆日記「雑草の息吹き」原作がNHKでドラマ化放送される。	2009年	H 21年	「追悼・生誕65周年記念田中佐知朗読会」(新宿歴史博物館)開催。
1972年	S 47年	小説「信濃川」光風社書店より刊行。母ミツをモデルにした作品だが母永眠。	2010年	H 22年	「世界遺産フォーラム」(新潟県万代市民会館大ホール)参加。メッセージを送る。新潟大学主催。共催県市教育委員会。後援新潟日報他。
1977年	S 52年	NHK「民謡の旅」45分対談番組に出演。	2011年	H 23年	新潟県小千谷市船岡公園に「田中志津生誕の碑」建立。
1990年	H 2年	小説「遠い海鳴りの町」光風社書店より刊行。	2012年	H 24年	東日本大震災。福島県いわき市で被災。次男行明と東京都で避難生活を開始。
1991年	H 3年	随筆「佐渡金山の町の人々」刊行。	2013年	H 25年	全集「田中志津文学作品集」(思潮社)刊行に係る。避難先の中野区都営住宅で左足大腿骨折。以降リハビリ・訪問医療などの治療を受ける。要介護4。
1993年	H 5年	小説「冬吠え」光風社出版より刊行。日本文藝家協会会員・日本著作権協会会員となる。	2014年	H 26年	現在執筆活動中96歳。
2000年	H 12年	フランス・パリにて「ESPACE・JAPON」親子3人展開催。			東京都中野区の都営住宅で避難生活中。
2001年	H 13年	新潟総合テレビに出演。			新聞・週刊誌・雑誌・テレビ・ラジオなどで多数紹介される。
2002年	H 14年	小説「佐渡金山を彩った人々」新日本教育図書より刊行。佐渡金山400年記念出版。			
2004年	H 16年	FM入間対談番組に出演。FM放送で長女佐知が「佐渡金山を彩った人々」全編朗読。			
		長女佐知が「冬吠え」を全編朗読。			
		長女佐知59歳で永眠。娘の代表作詩集『砂の記憶』刊行に係る。			

田中 佐知(たなか さち) 本名保子(やすこ)

《1944年4月11日〜2004年2月4日》

1944年4月11日東京生まれ。詩人・エッセイスト。明治大学文学部英文科卒業。

三菱商事(株)退職後、新聞・月刊誌・雑誌などに詩・エッセイ・評論・翻訳など発表。詩誌「ハリー」元同人、詩誌「ラ・メール」元会員。

○著書

- 詩集『さまよえる愛』思潮社 1983年
- 写真詩集『MIRAGE』太陽出版 1993年 田中保子・行明共著
- 詩集『見つめることは愛』朱鳥社 2004年
- 詩集『砂の記憶』思潮社 2004年 現代詩代表詩選収録
- エッセイ集『詩人の言魂』思潮社 2005年
- 詩集『樹詩林』思潮社 2006年 現代詩代表詩選収録
- 詩集『見つめることは愛』『砂の記憶』韓国版翻訳 バベルコリア社 2007年

絵本詩集『木とわたし』朱鳥社 2008年 詩田中佐知・画植垣歩子

第16回いきいき活動奨励賞特別優秀活動賞受賞(福島県立あさか開成高等学校受賞)

田中佐知遺稿集『二十一世紀の私』書肆山田 2009年
絵本詩集『田中佐知絵本詩集』朱鳥社 2011年 詩田中佐知・画南高彩子・英訳南高えり

全集『田中佐知全作品集』思潮社 2011年
『現代詩文庫』詩集田中佐知 思潮社 2013年刊行予定

詩集『砂の記憶』英語版(欧米圏での販売)企画 2014年予定

○主な活動

- 東京—
 - 三菱フォトギャラリー、三越フォトサロン 写真・詩展示
 - 俳優座 自作詩朗読
 - 岩波カルチャーサロン 対談、質疑応答
 - 新宿歴史博物館「追悼・生誕65周年記念田中佐知朗読会」後援 日本朗読文化協会
 - なかの芸能小劇場「田中佐知「言葉の力」」後援 福島民報
 - 福島—
 - NHKいわきギャラリー、ギャラリーアイ、創芸工房、草野心平記念文学館、ラトブ、平サロン、デイサービス「ウイズハート」他朗読会、現代音楽会など
 - 埼玉—
 - 新所沢コミュニティセンター 朗読会
 - 所沢図書館まつり 本・原稿・写真展示
 - フランス パリ—
 - ESPACE・JAPON「親子3人展」詩朗読、講演、絵画・写真展示
 - その他
 - 「田中佐知珠玉の自作詩朗読」CD制作 俳優座にて収録
 - 新潟日報「晴雨計」6か月間随筆連載
 - 女声合唱組曲「砂の記憶」、現代音楽「孤独1・2」
 - FM放送にて母田中志津の小説「佐渡金山を彩った人々」及び「冬吠え」を2年間かけ全編朗読
 - 田中志津「文学碑」「生誕の碑」佐知が朗読したことが刻まれる。
 - ※マスメディア紹介多数

田中 行明(たなか ゆきあき)

東京生まれ。
東京経済大学経済学部経済学科卒業後、明治大学で教職課程修了。
業界新聞記者(通産省ペンクラブ)、舞台監督、教員を経て大手非鉄
金属会社に30年間勤務。定年退職後、プロデュースなどを手掛ける。
写真家、エッセイ・シナリオ・短編を執筆。

○主な著書

写真詩集『MIRAGE』太陽出版 1993年 田中保子・行明共著

○主な活動

東京―

新宿安田生命ホール「歌謡チャリティーショー」舞台監督

丸の内三菱フォトギャラリー「姉弟展」写真展示

三越「姉弟展」「潮騒にきらめく女たち」写真(行明)・詩(保子)

新宿歴史博物館「追悼・生誕65周年記念田中佐知朗読会」企画。そ

の他朗読会企画。

原宿 DESIGN FESTA GALLERY HARAJUKU 「田中行明マッ

チ箱展」写真・油絵・水彩展示。その他グループ展参加。

大阪―

ギャレ・カザレス 田中行明写真展「Mの肖像」

福島―

SHICK GALLERY 「田中行明写真展」写真・油絵・水彩・墨絵展示

ギャラリーアイ「親子3人展」写真・油絵 田中行明 詩朗読 田中保

子 講話 田中志津

NHKいわきギャラリー「海辺に舞い降りた妖精」写真・詩展示

写真 田中行明・詩 田中保子(佐知)

平サロン「田中佑季明を取り巻く世界展」写真・油絵・コレクション

田中 一朗(たなか いちろう)

《1913年7月6日～1977年12月5日》

1913年7月6日東京都目黒区にて父政四郎、母きいの長男として
生まれる。

明治大学商学部卒業。中央大学法学部卒業。

1941年12月24日増川シツ(志津)と結婚。目黒雅叙園にて挙式。

大手企業工場長を務めた後、独立。

経営コンサルタントとして、小石川後楽園に事業会社を設立するも、

軌道に乗らず閉鎖。

新宿の自宅を一部事務所として改築し、機械メーカーの代理店とな

る。高収入を得て生活基盤も安定する。

結婚後波瀾万丈な人生であったが、晩年の5年間は病治療のため静

かな生活を送る。

64歳で心不全のため永眠。

絵本詩集「木とわたし」原画展企画 詩 田中佐知 画 植垣歩子

木もれび「たなかゆきあきよろず展」幻の個展 写真・油絵・水彩

コレクション 朗読・コンサート企画 東日本大震災で中止

―フランス・パリ―

ESPACE JAPON「親子3人展」写真・油絵・水彩 田中行明 詩朗

読 田中保子(佐知) 講話 田中志津(同時通訳)

○その他

ニッポン放送 『MIRAGE』インタビュー

いわきワシントンホテル椿山荘「生涯学習」私を取り巻く世界 講話

FMいわき 『MIRAGE』・『砂の記憶』などについてインタビュー

NHK 親子インタビュー

『田中佐知全作品集』『田中志津全作品集』年譜編纂

※マスメディア紹介多数

田中 昭生(たなか あきお)

1943年2月14日東京生まれ。

明治大学付属中野高等学校卒業。明治大学商学部商学科卒業。

岩谷産業(株)外国部外国課勤務。退職後営業職に就く。

現在、年金生活。

田中 彩子(たなか あやこ)

1977年11月23日東京生まれ。田中昭生の次女。

高等学校卒業後、専門学校中退。

ネイルアートの勉強のため、米ワシントンへ遊学する。帰国後、絵

などを描いている。

貸画廊勤務。